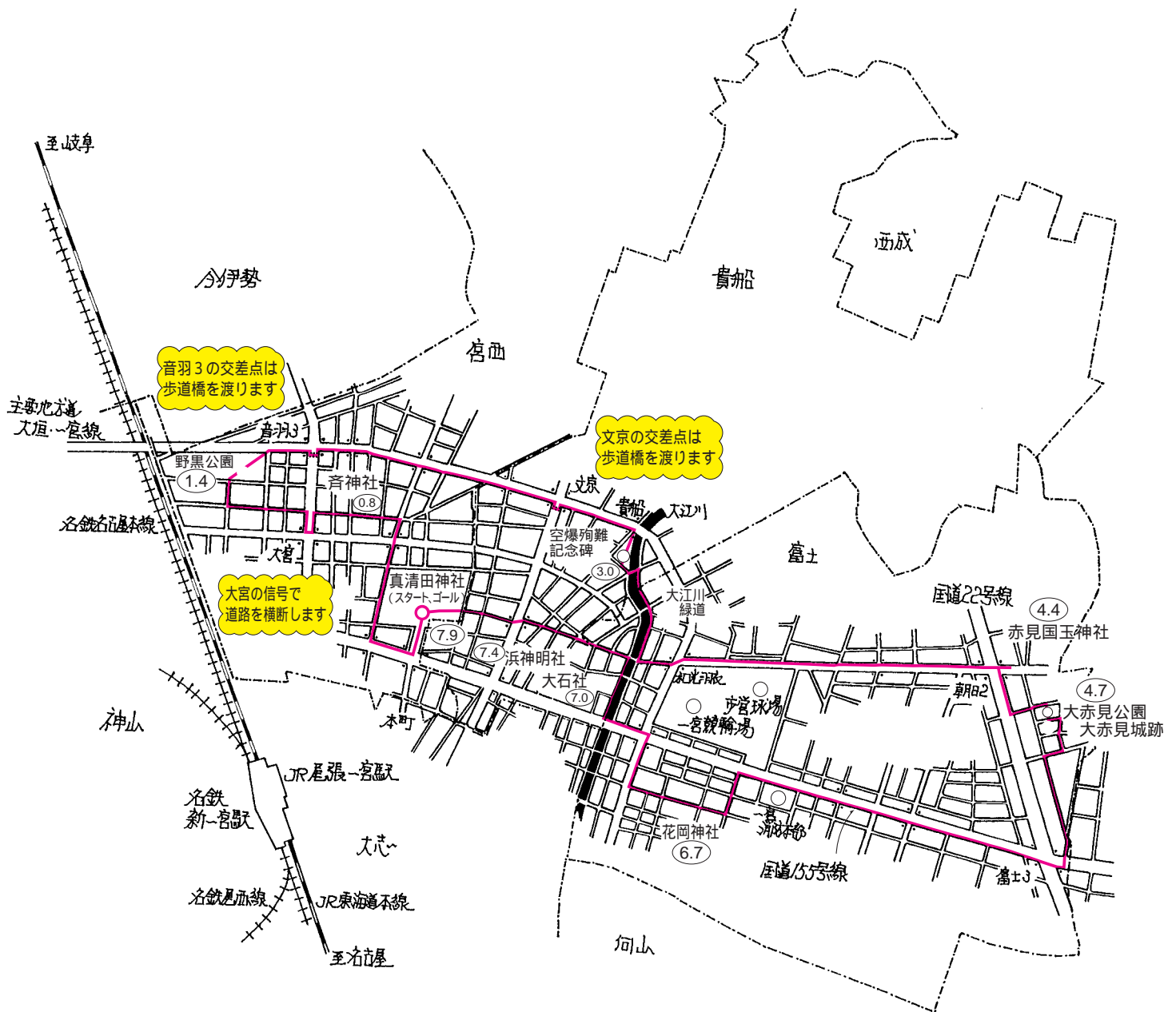


# 『ふるさと再発見ウォーク』(宮西・貴船・富士連区)

## コース案内 (7.9km)

### コース

真清田神社(スタート)~ 斎神社~ 野黒公園~ 空爆殉難記念碑~ 大江川緑道~ 赤見国玉神社~ 大赤見公園~ 大赤見城跡~ 花岡神社~ 大石社~ 浜神明社~ 真清田神社(ゴール)



凡例  
● : スタート、ゴール  
○ : 目標となる建物等  
○ : 内の数値はスタートからの距離で、単位はkm  
 : 信号機あり(信号機に従って下さい)

# 名所・旧跡メモ

## ①真清田神社

真清田神社は尾張の国の一の宮である。一宮とは、平安時代からすでに用いられている名で、国司がその国に赴任したとき、一番はじめに参拝する神社を「一の宮」と呼んだ。尾張の国の一の宮の呼び名が地名になったものである。神社の面積は30,090㎡もある。

祭神は、天火明命で天照大神の孫にあたり、鏡造りの祖といわれ、また尾張人の遠祖ともいわれる。本殿の東に服織神社がある。祭神は萬幡豊秋津師比賣命といい、天火明命の母で織物の神として祀られる。平安時代の紀貫之が、古今和歌集を選ぶにあたり、成功を当社に祈って植えたと伝える桜の植継が拝殿の東にある。

また、拝殿前の伝教杉は、伝教大師が参籠したとき、植えた杉の植継であると伝える。皇室を始めとして各方面の崇敬が厚く、由緒伝説に富み、神宝も多い。

## ②斎神社

大宮3丁目にある斎神社は、天照大神に仕える斎宮の倭姫命が滞在されたところに建てられた神社と伝えられている。

現在は、斎神社といっているが、斎宮（寛文覚書）、斎宮社（真清探桃集・天保村絵図）といった。斎宮は伊勢神宮に奉仕する未婚の皇女のことで倭姫命からはじまり、天皇の即位ごとに定められたが、後醍醐天皇の時代（1318～1338）に廃止された。

## ③野黒公園

市街地の北部に位置する日光川沿いにある。以前は、民有地であったが、戦後、戦災復興土地区画整理事業にて設けられた公共空地で、当時の起伏を利用して整備された。東方には自然風の曲線を生かした「ひょうたん」形の池を設置し、池の周りには約1,000㎡におよぶ植栽を配してある。西方には遊戯広場を設置。昭和29年に都市計画決定され、翌30年3月31日に開園した。

## ④空爆殉難記念碑

昭和20年（1945）7月に一宮市は空襲にあい、多数の死者を出した。もっとも多数の死者がでたのは、大乘公園の周辺一帯であった。

昭和33年（1958）に、亡くなった人々の冥福を祈るとともに、二度とあんな悲しいことが起きないようにとの願いから石碑が建てられた。

## ⑤大江川緑道

市の中央を北から南に流れる大江川は、平安時代に尾張の国司大江匡衡が、住民の水による悩みを解決するため、旧来の用水路を整備した。住民はその徳を感謝し、その名をとって「大江川」と呼ぶようになった。

約300本ものソメイヨシノの並木が続く桜の名所で、毎年4月には桜まつりも開かれている。あずま屋やトイレ、水飲み場なども設置され、市民の散策路・憩いの場となるよう整備されている。

## ⑥赤見国玉神社

境内には、文化6年（1809）の銘が入った石灯笼がある。江戸期には「天神様」と呼ばれていたようである。

桃花祭に用いたと伝わる将棋（桂馬）の駒の形をした飾馬具を所蔵している。

## ⑦大赤見城跡

大赤見城は、かなり完成された城下をもち、いまも地下中屋敷、地下西屋敷、地下東屋敷、市場東屋敷、市場地下屋敷などの地名が残り、市場をそなえた城下町時代の様子がうかがわれる。この赤見の地は小牧長久手の戦いの末期、秀吉の第2次尾張出馬の際戦場となっており、この経験から10月家康は大赤見城に西郷家員を入れ守備にあたらせた。

**⑧花岡神社**

大正8年、花岡は花街として、市内に散在していた花柳業者を集めて形成されたが、その時、八ッ廣神社（昭和9年、花岡神社に改称）も街の中央部に建てられた。

**⑨大石社**

真清田神社第四の別宮で「東ノ天王」と称し、天王3丁目にある大神社という西ノ天王とともに本社を守ったと伝えている。

大石社の祭神は日本武尊となっている。その日本武尊が東国征服の途中、石を神体としてまつたのが大石社で、石のようにこの国の人々の心を堅く固めて国家安穩を祈るためであると「旧一宮市史」は書いている。

**⑩浜神明社**

真清田神社の東方約500m、桜1丁目にある。真清田神社第三の別宮で西神明社とペアになっていて東神明社という。

昔は、海水がここまできたので、皆この流れで身を清めて真清田神社へ参詣した。それでこの神社を「浜ノ神明」ともいった。